26PA-am110

日向薬（くすり）事始め（その 18）－日向における種痘の歴史－再考（Ⅵ）、我が国牛痘種痘の嚆矢異聞記

○宇佐見 則行[1], 岸 信行[2,3], 高村 徳人[2,4], 山本 郁男[5]（[1]北陸大薬, [2]九州保福大薬 QOL 研究機構, [3]宮崎・日向・富高薬局, [4]九州保福大薬, [5]元・九州保福大薬）

【はじめに】我が国の牛痘種痘は、定説では 1849（嘉永 2）年 7 月蘭館医、モーニッケと楢林宗建らによる、これが嚆矢とされている。我々は、「日向の種痘史」を調査中、若山健海（医師）と福島退庵（藩医）によって、定説より 4 ヶ月早い 1849（嘉永 2）年 3 月 6 日と記載される若山健海著、嘉永酉載、「種痘人名録」を入手。これまで、日本薬史学会（札幌、福岡）において報告。これを機会に定説以外に我々の報告を含めて 6 例あることが分かったので、ここに異聞記として報告する。【結果及び考察】①吉雄圭斎の種痘：1823（文政 6）年、圭斎 1 歳の時、初回、来日のシーボルトによって牛痘を接種。この結果を 1859（安政 6）年、再来日したシーボルト自身が、彼の腕に瘢痕を認め、善感していたことを確認 [1)]。②中村涼庵の佐賀、武雄における接種：1937（天保 8）あるいは 1839（天保 10）年、涼庵は牛痘を 1 人の子供に接種後、武雄まで連れていき、妹の子の兄弟 2 人、さらに武雄藩主、鍋島茂義の子、茂昌にも植えたという [1)]。③高島秋帆の報告：1839（天保 10）年、秋帆は商館長ニーマン（J.E. Nieman）に注文した牛痘菌を船医リシュールが長崎に持参、接種。秋帆は「火技鑑赦種痘三技開基（大砲、海防、種痘は成功）」と記している（開基は物事のもといを開くこと）[1)]。④琉球における米医パーカーによる種痘：1837（天保 8）年、モリソン号に同乗して那覇に寄港した中国在住の米医パーカーが牛痘種痘を伝授。⑤福島邦成、柴田方庵、前田杏斎の種痘：1845（弘化 2）年、長崎より痘痂を得、福島が宮崎に持ち帰り、伜 5 歳に接種、好結果を得る [2)]。⑥若山健海と福島退庵による接種：これが我々の研究である [3)]。【文献】1）相川忠臣、出島の医学、長崎文献社（2012）、2）中西啓、ニッポン医家列伝、㈱シー・アール・シー（1992）、3）山本郁男、日向の医人達－日向医薬事始め、㈱ながと（2012）。